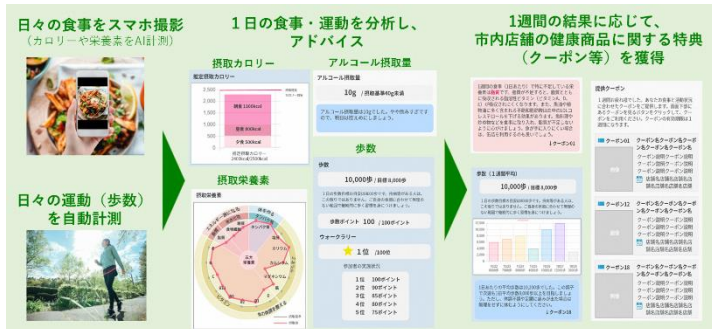


日常生活における食事（カロリー・栄養素）や運動（歩数）を計測し、健康状態の分析・可視化⇒行動・食事のリコmendを行うことで健康行動を促し、健康的な生活への行動変容を図ると同時に、市内のお勧め店紹介＋クーポン発行により、市内店舗の利用を促し、地域経済の活性化に繋げるサービス（スマートフォンアプリ）の実証実験を実施。あえて有料サービスとして試行することで実装・事業化に向けたリアルな課題を把握した。

■ 実証実験の内容

サービスの概要(生活習慣改善フォローアプリ)

スマートフォンアプリにて、毎回の食事の写真を撮ることで摂取カロリーと栄養素をAIが自動算出し、また日々の運動(歩数)から消費カロリーを算出。それらデータから健康分析を行い運動や食事についてアドバイスすると共に、健康分析結果に応じた健康商品/サービスを扱う市内店舗の特典(クーポン等)を獲得できる。



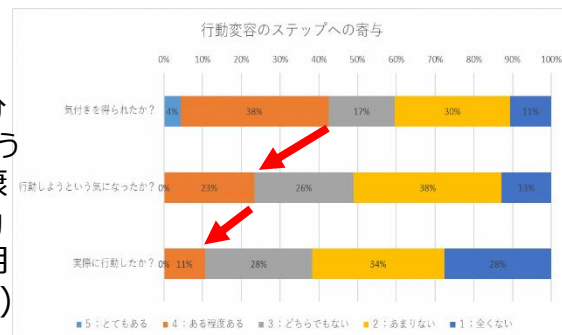
実証実験の概要

本サービス(アプリ)を市民に2ヵ月間ご利用頂くことで、健康的な行動変容に繋がるか、継続的に使い続けられるか、利用料収入の可能性などについて、アンケート等を通して検証。あえて有料(月額300円×2ヵ月)とすることで忌憚ない意見を把握する。今回は計68名の市民が参加。

■ 実証実験で得られた成果・知見

行動変容への寄与

被験者の42%に対しては健康に関する気付きを与えられたことが分かった。一方、健康行動しようという気になったのが23%、実際に健康行動にまで至ったのは11%。行動変容に繋げるにはまずは継続利用したくなる魅力的なサービス(アプリ)に改善する必要があることを把握。



サービス(アプリ)の受容性

利用者が初期は約76%あったものの終了期には13%まで減少。継続利用するには、食事毎に写真撮影する手間がボトルネックとなっているためその仕様/品質の改善と、クーポンの充実化が必要であることを把握。



利用料収入の可能性

被験者の26%は100円～300円なら継続利用すると回答しており、有料化の可能性はゼロではないと考える。ただし、継続利用したくなるようサービス(アプリ)の仕様/品質の改善が必須。

